

令和2年度 施設分析シート

<b>I 施設の概要</b>		施設コード	S05-04-01		
施設名	ゆいの森あらかわ				
所在地	荒川区荒川二丁目50番1号				
部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	23~28年度 6,655,091	831,606	3,817,000	2,006,485
	増改築① 増改築②				
併設施設					
竣工年月日	平成29年1月31日		常勤・非常勤	その他	
供用開始年月日	平成29年3月26日	職員数	79		
構造	鉄筋コンクリート造	階層	地上5階・地下1階		
面積	敷地面積				4,111 m <sup>2</sup>
	延床面積				10,944 m <sup>2</sup>
設置目的・経緯	利用者が自ら学び体験し、人と人が交流できる地域の文化やコミュニケーションの拠点づくりを推進する。				
関連部署	地域図書館課				
根拠法令等 設置条例	荒川区立ゆいの森あらかわ条例				
駐車場の状況	12台	バリアフリー	● エレベーター	● だれでもトイレ	
駐輪場の状況	370台	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ	



**II 管理運営の状況**

管理形態	直営	-	期間	-	から まで
事業内容	(1) ゆいの森あらかわ事務管理・運営に関する事業 (2) ゆいの森あらかわ子どもひろば運営等に関する事業 (3) 吉村昭記念文学館推進事業 (4) 中央図書館運営事業				
対象者	区民等				
運営時間等	運営時間	午前9時30分～午後8時30分			
	休日	毎月第3木曜日、特別整理日、年末年始 他			

施設基本データ等		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(見込み)
	来館者数※		151,713	690,094	707,295	697,418
利用登録者数※		7,990	20,422	26,378	28,740	
所蔵資料数(点)		359,935	375,391	394,326	402,779	
貸出利用者数(人)※		63,681	198,222	200,345	191,372	
貸出資料数(点)※		179,841	764,205	764,510	727,666	
開館日数(日)※		224	340	339	337	
イベント開催数(回)		2	332	492	514	
に指定 等 管理 費						

備考 ※印の項目は、平成28年度の数値に旧荒川図書館分を含む。

**III 財務諸表**

(単位:千円)

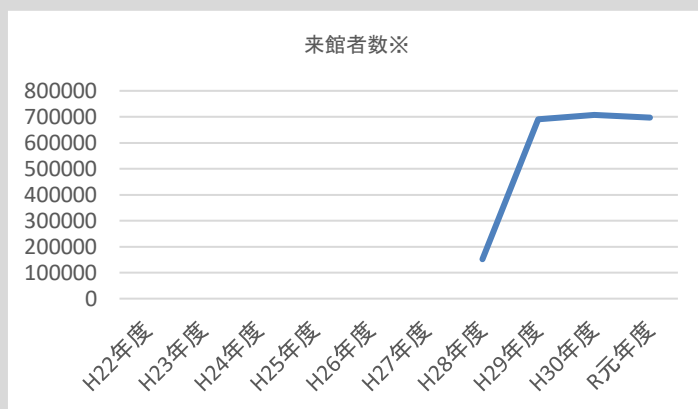
行政コスト計算書	勘定科目	H30年度	R元年度	差額	勘定科目	H30年度	R元年度	差額
	行政費用	給与関係費	319,178	324,067	4,889	地方税等	0	0
行政費用	物件費	328,519	330,040	1,521	国庫支出金	3,320	3,402	82
	維持補修費	1,246	3,213	1,967	都支出金	3,320	3,402	82
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	3,788	3,478	▲ 310	使用料及び手数料	5,320	5,234	▲ 86
	減価償却費	256,184	256,184	0	その他	7,523	7,125	▲ 398
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	19,483	19,163	▲ 320
	賞与・退職給与引当金繰入額	26,041	19,626	▲ 6,415	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 915,473	▲ 917,445	▲ 1,972
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	▲ 11,866	▲ 11,425	441
	行政費用合計(b)	934,956	936,608	1,652	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 927,339	▲ 928,870	▲ 1,531
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 927,339	▲ 928,870	▲ 1,531	
貸借対照表	流動資産				勘定科目	H30年度	R元年度	差額
	収入未済	0	0	0	流動負債	759,881	267,332	▲ 492,549
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	特別区債	750,800	257,911	▲ 492,889
	有形固定資産	7,632,336	7,384,228	▲ 248,108	賞与引当金	9,081	9,421	340
	土地	1,622,139	1,622,139	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物	6,431,429	6,431,429	0	固定負債	2,964,662	2,696,925	▲ 267,737
	建物減価償却累計額	▲ 484,497	▲ 726,831	▲ 242,334	特別区債	2,879,199	2,621,288	▲ 257,911
	工作物等	74,811	74,811	0	退職給与引当金	85,463	75,637	▲ 9,826
	工作物等減価償却累計額	▲ 11,548	▲ 17,321	▲ 5,773	その他の固定負債	0	0	0
無形固定資産	239	207	▲ 32	負債の部合計	3,724,543	2,964,257	▲ 760,286	
建設仮勘定	0	0	0	正味財産	3,973,681	4,480,729	507,048	
その他の固定資産	65,649	60,551	▲ 5,098	正味財産の部合計	3,973,681	4,480,729	507,048	
資産の部合計	7,698,224	7,444,986	▲ 253,238	負債及び正味財産の部合計	7,698,224	7,444,986	▲ 253,238	

備考 行政費用では給与関係費と物件費が多い。物件費の内、多くを占めるのは施設の維持管理に係る経費で、内訳は、建物維持管理・保守等121,368千円、公共料金に39,077千円となっている。行政収入では地下駐車場使用料で2,294千円、乳幼児一時預かり利用料で2,776千円、友の会会費で982千円の収入があった。

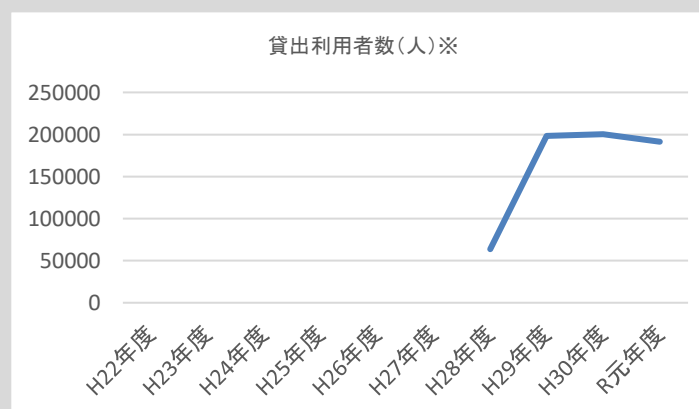
指標		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)		4	8	11.4	
	1㎡当たりコスト(円)		85,300	85,433	85,584	
	人にかかるコストの割合(%)		41	37	36.7	
	蔵書回転数(貸出冊数/蔵書数)		2	2	2	
	貸出1冊当たりコスト		1,352	1,223	1,287	
	開館1日当たりコスト(円)		2,745,597	2,757,982	2,779,252	
	利用者1人当たりコスト(円)		1,353	1,322	1,343	
備考	前年度と比較して、1㎡当たりコストが151円増加し、開館1日当たりのコストが21,270円、利用者1人あたりのコストが21円増加している。これは行政費用の増加に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館したことと、これに伴い利用者数が減少したためである。					

#### IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名: )					
目標指標	指標名・単位	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度(見込み)
	入館者数	目標値		600,000	721,000	
		実績値		707,295		
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他( )					
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容: ) ● 無					
利用者・地域のニーズ	子どもから大人あらゆるまで世代に利用され、知の情報発信基地、地域コミュニティの中核施設としての役割を担っており、必要性は高い。					
現状・課題	○安全で安心して滞在できる快適な施設となるよう、「おもてなしの心」をもったサービスの提供や利用者の視点に立った環境の整備をさらに行っていくとともに、新型コロナウイルス感染拡大の防止を図り安全な施設運営を行っていく必要がある。 ○いつ来ても新しい発見や変化を感じられる魅力ある施設となるよう、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を踏まえた各種事業、イベント等を継続的に実施していく必要がある。 ○区民に身近で愛される施設となるよう、ゆいの森の運営をサポートするボランティアの育成を図っていく必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○職員の待遇のさらなる向上のための研修等の実施、利用者にとって分かりやすい館内サインのさらなる充実、安心・安全な施設利用のための感染症拡大防止対策の実施 ○イベント、企画展示等の計画的な実施、他部署や関係機関、地域団体等多種多様な団体との連携 ○各種ボランティア講座の開催、ボランティアの活動の場の提供、各種ボランティア団体の交流・連携					
議会、利用者等からの意見	H29 6月会議 ・福井県立文学館や、他自治体との交流・連携について H29 6月会議 ・全国からの視察の受入体制について H29 6月会議 ・サインや、館内ディスプレイの充実について H30 6月会議 ・明治維新百五十年の企画展(彰義隊)について					



来館者数が令和元年度に減少しているのは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためサービスの一部休止や臨時休館としたためである。



貸出利用者数が令和元年度に減少しているのは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、サービスの一部休止や臨時休館としたためである。